

大日本山林會報

第四百三十六號

大正八年三月十五日發行

目次

● 所謂ワダネル氏條狀劃伐法に就て……………	林學士 關文彦……………	一
● 治水上堤防に木竹植栽の可否……………	山本徳三郎……………	四
● 海岸飛砂防止林造成法(承前)……………	福田 照一……………	一五
● 造園に於ける樹木の生長……………	林學士 上原 敬二……………	二五
● 山茶の菌核病に就て……………	原 攝祐……………	二九
● 山林會報記載のウキルソンの見たる朝鮮の森林中の誤譯……………	林學士 後藤 收藏……………	三一
● 漫 錄……………		三三
○ 世界中で一番軽い木材○趣味の果樹……………		三七
● 質疑應答……………		三七
○ 紅葉の播種造林法○雪折れ笹……………		三八
● 抄 錄……………		三八
○ 森林化學……………		四〇
● 雜 報……………		四〇
○ 香川縣の竹材工業と竹林の現況○桑炭製造を奨む○戦後英國の造林計劃○樅枝の剪定整枝と其成育關係に就て○朝鮮平安北道江界郡に於ける製炭法○國產バルブ自給成る○米國に於ける木造船建造計劃廢止○木材市況低落○新刊書紹介○新刊雜誌重要記事		

◎注意 本號には第六回總會の廣告あり

ムクエノキ	五十年
イテフ	七十年
ツバキ	四十年
サクラ	四十年
スギ、ヒノキ	八十年
カヘデ	五十年
クロマツ、アカマツ	百年
モミ	五十年
カヤ	八十年
カシ	八十年

根張りの種類に對し概括的に分けて見れば、

第 一 類	狀	クスの如し
條痕狀	狀	ムク、トチの如し
根上り狀	狀	クロマツ、ケヤキの如し
瘤窩狀	狀	エノキ、ツバキ、ケヤキ、サクラの如し
洞窟狀	狀	シビ、ウメ、カシの如し
乳房狀	狀	イテフの如し

第二 樹幹生長

樹幹生長は即ち肥大生長である然し肥大の目的は木材とか成分とか樹皮とか樹液とかの利用にあるのではなく物質の輪廓的増大即ち空間の占有容積さへ大となればよいので極端に云へば造園構造美に影響なければ

二大特徴である、枝張は植栽の如何によつて或る點までは左右されることが出来るけれども上長生長の方は其立地と營養とに支配されるので枝張の如く技巧的に技術者の手によつて自由には出来ないものであるから一層此の智識が大切であつて加ふるに豫想が此の上もなく困難である、上長力は本來定まつて居るものであるから實際それを動かすことは出来ないが唯人爲的に助長して行く方法は何程もある即ち造園構造上に色々人間の錯覺(幻想)を美化巧用するか形式原理、陰影の手段を講ずるか時に更に眞面目にやれば土地の高低起伏を利用して其特徴を發揮せしめる事が出来る、而して此の上長生長は森林經理學で云ふ様に單に高さ線としての如何を論ずるのではなく換言すれば其高さ丈けの利用が目的であるのではなく此れと常に附屬して枝張直徑と樹冠曲線とが關聯して来る、故に樹高生長は形の要素として大切なものであつて若し植込を作る場合などに於ては林冠生長の骨子となつて活動するものである、而して殊に針葉樹に於ては之れのみを考へてもよい位で又多數の潤葉樹にとつては枝張と共に年齢の増加に應じて如何に生長するかを研究する必要がある。樹高は造園との材料として樹木を見慣れない人にとつては樹形の印象的部分である造園上では

材の内部は腐朽して居やうと蟲が喰つて居やうと一向差支ないわけであつて外觀に表はれた形態の増加色彩の整頓等を目的とするのである、而して樹幹の生長には之れに伴ふ從屬的發育がある即ち粗皮とか皮目とか針棘等の發達である此の中には喬木性と灌木性との大さの増大程度が違ふから一概に直徑何尺を標準とするわけには行かない他面樹幹美は枝下や樹冠や根張にも關係があるし周圍の環境にも關係がある、粗皮の二三の例を挙げれば龜甲形に剝皮するものはマツによつて代表される通り、小瘤窩狀に現はれるものはウメあり纖維狀となるものは多くの針葉樹あり輪狀に剝皮するものは色こそ異なるがアオギリ、ケヤキ、ツバキ、ムクロジ、イイギリ等あり細片となつて脱離するものはサルスベリ、ナツツバキ、ビランジ、ニンジンボク、ハクンボク、ブラタヌス、クワリン等あり荒い條痕狀ではイテフ、キハダ、細い條痕狀ではエノキ、ニレ等あり棘のあるものにはカラスサンショウ、サイカチ等が著しい例である。

第三 樹高生長

樹木の伸長は造園に於ては枝張と合せて形態變化の

本來之れを三様に分けるのが便利である一は枝下二は本來の樹冠高、三は梢端部分である殊に枝下などが樹木の形態に如何の作用があるかは注意して見る人のよく知る處であらうと思ふ。

第四 枝張生長

枝張生長は潤葉樹に於て大切である針葉樹ではマツに於て最も著しい之れスギとかヒノキとか其他の針葉樹では大體樹形と云ふものが一定して居て高さ、年齢枝張等の或る關係が存するから換言すれば枝序角に支配されて單調な枝張に終るのである潤葉樹にあつては之れに反し枝張は樹冠と密接な關係があつて茲に樹冠生長と枝張生長とを分つて研究することの無理な點がないのを發見する故に寧ろ樹冠生長の條下に一所に述べる方が便利が多い、然し生長は全く別物である。(未完)

●山茶(椿)の菌核病に就て

原 攝 祐

山茶は庭園に栽植して其花の美を賞するものあり山野又は畑に栽培して種子を採集して椿油の原料に供し

或は材は建築材料又は諸種の器具を製する等其用途廣し。

而して山茶に就き其栽培効用を記述する單行本の發刊せられたるものなく其病害に至りては白井博士の餅病 (*Exobasidium Camelliae* Shis) の研究あり予の枝枯病 (*Cryptorhiza Cancelliae* Syd. et Hara) 其他煤病等數種あり今予は予が新發見の菌核病に就き愚見を述べて以て當業者の參考とせん。

予が屋後に一本の古き八重咲の白山茶 (源氏?) ありしが近年に至り毎年花期に於て花は霜害に罹りたるが如き狀を呈し早く落下し大に其美觀を損せり本病は恐らく菌核病なるべしとは想像したれども多くの菌核病に於けるが如き「モニリヤ」胞子様の形成もなく只僅に病花の基部に甚だ纖細なる菌糸を認めたるに過ぎざりし。

然るに大正六年夏期より該山茶は葉枯死して落下し始め同七年春季に至り全く枯死するに至れり而して同年同期即ち四月に至り其樹下附近にキツネノハシタケに似たる菌茸の發生するを實見し之れを丁寧に掘り取り檢したるにこれは意外にも年來疑問を有しつゝありし山茶の花腐病の菌核より生ぜし子囊盤なりしこは山茶の蕾又は花中に菌核を生じこれより發生したること

は前年の花蕾が尙は殘存せる事實に徴して敢て疑を入るゝの餘地なかりしなり。

病 徴

本病は春季開花に先ちて花蕾が落下することあり此場合には花蕾は固有の色を失ひ褐色に變ずるのみなり又方に開花せんとする間際には白色の花蕾が開きて見ゆる頃其先端褐色に變じ以後開花する力を失ひ其儘落下す又辛うじて開花するものあるも被害花は普通の花の如く大ならず又通常に咲きし花に發生するときは其狀恰も霜害に遇ひたるが如く花蕾の先端褐色に變じ此變色部は漸次増大し花瓣全部に達し遂に萎凋枯死して落下す右の如き變色は通常花瓣先端よりなすが如しと雖多くは既に其基部褐變腐敗し纖細なる白色菌絲が蔓延するに至るものなり。

病原菌

菌核は落下せる蕾又は萼或は花等が地下に埋没したるものに形成せらる橢圓形豆狀又は不規則形にして表面は圓く下部は多くは凹面をなす大さ〇・七乃至二三センチメートルあり暗色なり。

子囊盤は一菌核より單生することあれども多くは數本乃至十本位抽出す初め棍棒狀なれども後頭部碗狀に開き中央に小點あり直徑〇・七乃至一・七センチメー

トル位あり遂に漏斗狀となり暗褐色にして其面白粉を撒布したるが如き觀をなし長き柄を有す柄は圓筒形にて色稍濃し長さ一乃至五「センチメートル」幅〇・五乃至一「ミリメートル」位あり子囊は子囊盤の表面に叢生す圓筒形又は棍棒狀にて頂端圓く基部漸尖して長き柄となる八個の胞子を一列に含有す長さ一二〇乃至一四〇幅六乃至九μあり胞子は橢圓形卵形又は圓筒形にして兩端圓く且つ其部に油球一個宛あり又は缺くことあり無色透明なり長さ八乃至一一幅四乃至五μあり絲狀體は絲狀にて幅二乃至二五μあり

本病菌は菌核病菌屬中子囊胞子古代のみ現出し分生子胞子古代を缺くものに屬す然して本病菌に最も近似するものは *Sclerotinia Libertiana* Fuck. = *S. Sclerotiorum* De Bary なり然れども後者は莖葉桑大麻瓜類豆類其他多くの植物の莖葉を犯し莖に菌核を生じ予が菌の如く花腐病を惹起し其病部落下して地中に埋没せるところに菌核を作るものと其質を異にするのみならず胞子の大小及び形狀に少し宛の差異あり又 *Sclerotinia tuberosa* Fekl. に類似するも胞子は予が菌にありては彼菌の大きさの半位にあるを以て同一ならずと考ふ又山茶に寄生する *Sclerotinia* 屬の菌類を見ず故に新種と認定し之れに *Sclerotinia Camelliae* Hara nov. sp. と命名せ

り。

驅除豫防法

(一) 山茶を植付する場合には成る可く陰濕の地を避くべし。

(二) 被害の花蕾等は集めて焼却すべし。

(三) 地上に生ぜし子囊盤は未だ漏斗狀に開かざる前丁寧に掘り取り焼却すべし。

●山林會報記載の(ウ井ルソン氏)の見たる朝鮮の森林)中の誤譯

林學士 後藤 收藏

米國ハーバート大學教授アーネスト、ヘンリ、ウキルソン氏は朝鮮森林植物研究の爲大正六年朝鮮に來遊し同氏獨特の熱誠を以て實地に就きて深く觀察する處ありたり而して同氏は大正七年七月再び渡鮮せし折余は朝鮮總督府宛同氏報告の控と山林會報四三八號(大正七年七月發行)記載の「ウキルソン氏の見たる朝鮮森林」中ラウセンカラマツ林更新の記事とを對照し誤譯のある點を告知せし處該問題に付實地同氏と共に研